

新文芸坐シネマテーク



L'Amour fou

Jacques Rivette



新文芸坐

Indie
Tokyo



ジャック・リヴェット

Jacques Rivette

1928年、フランスのルーアン生まれ。大学に通う傍らシネマテーク・フランセーズに足繁く通い、トリュフォーやゴダールらと友人になった。映画雑誌「カイエ・デュ・シネマ」に参加、後に第3代編集長となる。1961年には長編処女作『パリはわれらのもの』が公開。第3作『狂気』から大きく作風を変え、さらに次作『アウト・ワン』は12時間を超える大作となった。エキセントリックな側面のある作風と興業的不安定さから自他ともに認める「呪われた映画作家」だった。84年『地に墮ちた愛』以降は経済的に安定、91年の『美しい諷刺女』がカンヌ国際映画祭で審査員グランプリを受賞するなど傑作を連発。国際的巨匠として名声を確立した。代表作は他に、『セリーヌとジュリーは舟でゆく』『彼女たちの舞台』『パリでかくれんぼ』『恋ごころ』など。2016年1月29日、惜しまれつつ逝去。

新文芸坐シネマテーク vol.50 シネマテーク 50 回記念スペシャル

ジャック・リヴェット『狂気』リストア版



『狂気』の愛 リストア版

L'Amour fou

1969/仏/第1部:131分、第2部:124分/デジタル

監督・脚本:ジャック・リヴェット

脚本:マリルー・パロリーニ

製作:ジョルジュ・ド・ボールガール

撮影:アラン・ルヴァン/エティエンヌ・ベッケル

編集:ニコール・ルブチヤンスキー/アンヌ・デュボ

出演:ピュル・オジェ/ジャン＝ピエール・カルフォン/ミ

シェール・モレッティ/アンドレ・S・ラバルト

セバスチャン(ジャン＝ピエール・カルフォン)と彼の妻クレール(ピュル・オジェ)の劇団では、ラシーヌの悲劇「アンドロマック」のリハーサルを続けている。練習の様子は、テレビクルーが16ミリで撮影している。嫉妬を主題とした劇を演じる二人は、やがて実生活でも嫉妬にとらわれるようになり、現実とフィクションが複雑に交錯し始める。そして二人は家に閉じこもり、すべてを破壊し始める。

	開映	終映	
5.5 [月・祝]	17:00	19:10	狂気』の愛・第1部
	19:25	21:30	狂気』の愛・第2部
	21:35		講義
6.7 [土]	17:00	19:10	狂気』の愛・第1部
	19:25	21:30	狂気』の愛・第2部
	21:35		講義

第1部と第2部の間に15分の休憩が入ります

各日上映後に映画批評家・大寺眞輔さんの講義が60分程度ございます

料金:3900円均一

チケット:上映1週間前の0:00よりオンラインにて販売
(劇場窓口は9:00より販売)

※オンライン購入は新文芸坐公式HPよりご利用ください

※上映素材の状態によっては、映像にお見苦しい点がございます

感動はスクリーンから

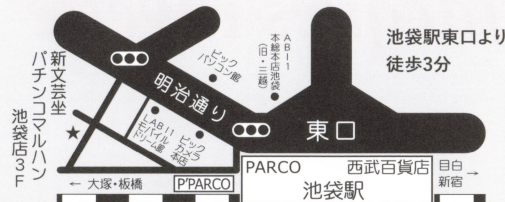
新文芸坐

03-3971-9422

www.shin-bungeiza.com

twitter:shin_bungeiza

東京都豊島区東池袋1-43-5
マルハン池袋ビル3F



共催:IndieTokyo

Indie
Tokyo

大寺眞輔

映画批評家、早稲田大学・日大芸術学部講師。「キネマ旬報」「文藝界」「カイエ・デュ・シネマ・ジャポン」などで映画批評を執筆。著書に「現代映画講義」など。IndieTokyo主宰。

